



ならぬものはならぬ

校長 吉丸 清昭

進級から1ヶ月過ぎましたが、子ども達は充実感のある学校・家庭生活を送れているでしょうか。本校は落ち着いた状況の中で、楽しくかつ安全安心な学校をめざして今月も進んでまいります。

さて、かつてのNHK大河ドラマ「八重の桜」で、主人公の八重が会津藩の軍事演習の邪魔をした際に、藩主から「ならぬものはならぬ」と叱られ、お仕置きを受けました。この「ならぬことはならぬものです」の教えは、今から約300年前の会津藩の藩校「日新館」の子ども達を育てた『什の掟』（じゅうのおきて）の中にあるものだそうです。

武士の師弟が、武士として生きる上の心構えとして教えられた以下の事項がそれです。

- 年長者（としうへのひと）の言ふことに背いてはなりません
 - 年長者にはお辞儀をしなければなりません
 - 虚言（うそ）を言ふことはなりません
 - 卑怯な振舞をしてはなりません
 - 弱い者をいぢめてはなりません
 - 戸外で物を食べてはなりません
 - 戸外で婦人（おんな）と言葉をまじえてはなりません
- ならぬことはならぬものです

この中には現代社会に当てはまらない時代を感じる項目もありますが、例えば「嘘を言ってはならぬ」「卑怯な振舞いをしてはならぬ」等、今でも教えられる戒めがあります。「弱いものをいぢめてはならぬ」はいつの時代も同じです。学校でも家庭でも、繰り返し諭していかなければならない重要なことです。注目すべきは、項目を列挙したあとに重ねて「ならぬことはならぬ」と書き添えられていることです。人として絶対にしてはならないことがある。それは、理屈ではないのです。人の道を外すことはしてはならないということでしょう。

今の子ども達は、明るく伸び伸びしているが、我儘だったり、思いやりに欠けたり、我慢強さが足りない等とも言われます。子どもの良さを伸長することを基本にしながらも「ならぬものはならぬ」即ち「だめなことはだめである」という姿勢を示していくことも大事な教育の視点ではないでしょうか。

- 気になることがあったなら、その子をよく観察して問題点を把握し、原因や背景を考えてみる。
- 繰り返し話すことによって、行動できるようにさせる。
- 正義を大切にさせ、不正や乱暴な行動を見逃さないようにしていく。
- 良い行動に対しては、心より喜びの気持ちを表し賛辞していく。
- 友達や家族とみんなで楽しく過ごすことを経験させ、人との仲間意識や家族意識を育てる。

子どもに「ならぬものはならぬ」ことをよく理解させ、時間をかけてでも自らの判断で自らを律することができるよう励ましながら、心の主体性や社会性を育てていきたいものです。

